

上谷の丘

「自分も他者も大切に、聞いて考え方行動し、挫けずやり抜く子どもを育てる学校」

上谷小学校では、今年度から「よりよい生き方を考えること」をテーマに道徳教育に取り組んでいることを以前ご紹介しました。その関連で、先日、小学校道徳研究会という団体の全国大会の授業を研究主任の渡邊教諭と共に視察、勉強に行ってまいりました。その学校でも子供同士の対話によるつながりを重視した授業が展開され、一人一人が道徳的な問題(価値)、例えば「相互理解・寛容」「友情・思いやり」などについて自分なりの考え方を根拠をもって語る姿が見られました。よきモデル授業として、上谷小学校の先生方にも報告し、さっそく先週道徳の授業研究会(研修)をしたところです。

昨今、SNSなど大人の社会では、人の失敗や過ちに対して、厳しい言動や非難があふれています。まるで「過ちを犯した人は強く責められて当然」という空気が広がっているようにも見受けられます。その背景の一つとして、“不寛容さ”が強まっていることが挙げられるのではないでしょうか。

学校での子供の日常に目を向けてみると、ちょっとした言葉の行き違いが誤解につながり、子供同士で相手を責めてしまい、トラブルになることがあります。これは、発達段階として自分中心の見方に陥りやすいことが影響していると考えられます。

このことについて、子供に、冷静に自身を見つめる時間を与えると、「自分も同じような失敗をしてしまったことがあるのに、相手を責めてしまった。」や、「自分にも悪いところがあるのに、相手のせいにしてしまった。」と、自身の未熟さを棚に上げていたことに気付き、反省する姿が見られることもあります。

このように、子供が自身の行動を振り返ることができるように、大人が交通整理をすることで、子供は謙虚さを学び、互いに理解し合う力を身に付けていくことができます。その継続が、子供同士で困難な状況を乗り越える力につながると考えます。私たちは、日々の教育活動を通して、子供の心の成長を支えるとともに、道徳教育では「相互理解・寛容」という価値についても指導に取り組んでいます。

心理的な衝突が起きたとき、謙虚さをもつことで、相手の立場や気持ち、相手に耳を傾け、理解し、相手を許し、関係を築き直すことができるようになります。授業の中では、対話を通して自己を深く見つめ、互いの考え方を認め合う中で互いに高め合う関係を築くことの大切さに気付けるよう工夫しています。

ご家庭におかれましても、子供が多面的に物事を考え、相手の気持ちや背景にも思いを寄せられるよう、温かく声をかけて見守っていただければ幸いです。

- ◆ 表面の記事にご意見等ありましたら以下の URL から、送信してください。
- ◆ <https://forms.gle/ygrHgAsQRunPxevC8>

【4年生の音楽会／「アンダー・ザ・シー」「歌が息をする】



11月5日、坂戸市文化会館で坂戸市小・中学校音楽会が行われました。4年生の出番は2番目、大きなホールで緊張する中、29名できれいな音を合わせた素晴らしい演奏でした。歌い出す前、小林先生は子供たちにすることをして緊張を和らげ、素敵なかみ声を響かせてくれました。

【中小坂上 自主防災会による炊き出し訓練】



11月24日、中小坂上のちびっこ広場で中小坂上の地域の方々による自主防災訓練の炊き出しが実施されました。地域の方々、子供を合わせ86名が集まりました。山形県風芋煮とおにぎりが作られ、参加者に配付されました。災害時の食糧確保の協力体制が確認されました。今年は三連休の中日ということもあり、子育て世代の参加が少ないようでしたので、主催者の方が「来年の参加をお待ちしています」とのことでした。

【1年生、2年生、たんぽぽ・すみれ学級 野菜マルシェ】



11月28日、UR 団地敷地内のスペース103で野菜マルシェと題し、学校で育てたり、採れたりした水菜やサツマイモ、柿や銀杏などを販売しました。元気な売り子さんたちは、東坂戸団地の方々と楽しそうに交流しながら野菜を売り、満足そうでした。また、地域の方々も喜んでいる様子でした。